

令和 8 年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：1 歳児クラス)

モニカ三軒茶屋園



テーマ

身近な虫

設定理由

散歩時にカタツムリを見つけ興味を持ち、動きを見つめたり、指で突き触れていた。お世話をすることでより親しみを持つことができた経験から、だんごむしやありなど身近な虫への興味が広がっている。虫を探し、じっと見つめたり、手のひらに乗せて動きを感じる子もいるが、触れることを苦手と思う子どももいるので、より身近な存在になってほしいという思いからテーマを設定した。

対象クラス

1歳児クラス・7名

活動のねらい

身近な虫に興味や親しみを持ち、
小さな命に心を向ける

キーワード

「どこにいるかな？」
「何しているかな？」

活動期間

令和8年7月～8月

活動回数

計4回

活動①

虫と出会う

問 い

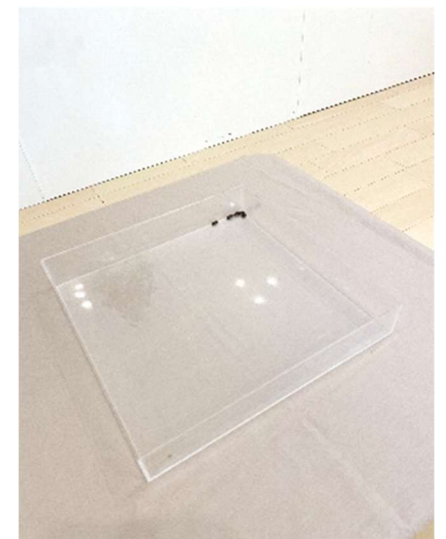
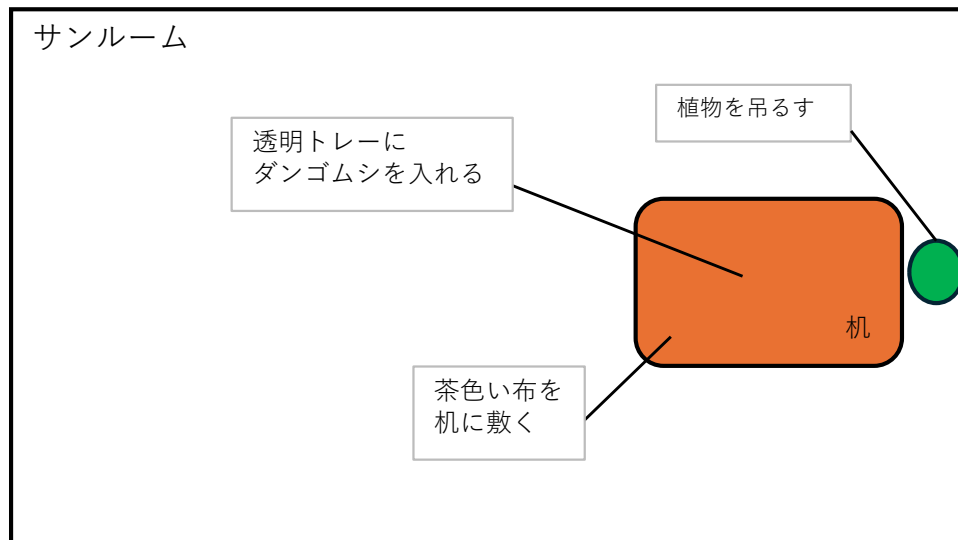
「動いてるね」「何してるかな？」

準備物

机 | 透明トレー | 布（茶色） | ダンゴムシ | 植物

環境構成

- ・ サンルームを使用し、2名ずつ行う。
- ・ ダンゴムシが見やすいように机に茶色い布を敷く。
- ・ 室内の明かりは暖色系にする。



身近な虫

テーマを設定する

公園や散歩時、虫を見つけ、園に持ち帰って触れ合うことで、身近な虫への興味がより増し、ともに過ごす中で親しみを持ち始めている。身近なダンゴムシの動きの面白さや不思議さを感じ、もっと仲良くなりたいという思いから設定した。

活動① ～虫と出会う～

R8.7.3

「動いてるね」「何してるかな？」という問いのもとに、ダンゴムシとじっくり関われる環境を用意した。

環境をデザインする

●準備したもの

机・透明トレー・布(茶色)・ダンゴムシ(4匹)・植物
・室内の明かりは暖色系にする。

事前の試し

- ・ダンゴムシの動きや見え方を確認する。
- ・室内の明るさを調整する。

探究活動を実践する

●活動内容

トレーに入ったダンゴムシの動く様子をじっくり観察したり、触れ合ったりしながら関わる

●子どもたちの様子

「何してるかな？」という問いに対して

- ・ダンゴムシの動きをじっと見つめる。
- ・同じ目線になったり、下から覗いてみたり、さまざまな角度から観察する。
- ・ひっくり返ったダンゴムシの足が動く様子に面白さを感じ、笑ったり、自分の手を使い脚を表現する。
- ・ダンゴムシが動きを止めると、指で突くことを繰り返す。



振り返りをふまえた気づき

シンプルな環境でダンゴムシと関わることで捕まえる・触れるではなく、じっくりと動いてる様子を見ていた。トレーが滑る為、ダンゴムシは一度ひっくり返るとなかなか起き上がれず、その姿に面白さを感じ、声を上げてみたり、自分の手を使い表現する姿があった。またダンゴムシが動きを止めると不思議な表情を浮かべ、指先で突いていた。

ダンゴムシを下から覗く環境も作ってみたが、日常では上からしか見てこなかったのも不思議そうな表情をしたあとトレーを下してと伝える子が多かった。

一回目の時に観察のしづらさを感じたため、二回目以降机を変更した。すると上からだけでなく真正面や真横から観察し、迫力を感じようとする姿があった。

活動②

身近な虫（ダンゴムシ・アリ）を育てる

問 い

「どんな場所が好きかな？」 「ご飯食べるかな？」

準備物

虫かご(アリ・ダンゴムシ) | 砂糖 | 水 | ティッシュ | 虫眼鏡 | 霧吹き

アリの巣キット(土用・ゼリー状のもの) | 昆虫図鑑

絵本『生まれたよ！アリ』 『アリからみると』 『ダンゴムシみつけたよ』

環境構成

- 虫かごは常時のぞけるようにする。
- 餌やりは2～3名ずつ行う。
- アリを虫かごでも育て続けるが、試しの中で虫かごでアリを飼育し続ける難しさがあった為、戸外にアリの巣キットを持っていき、室内で観察できるようにする。



フロア使用

虫かご(アリ・ダンゴムシ)・砂糖・水



身近な虫

活動② ～身近な虫(ダンゴムシ・アリ)を育てる～ R8.8.20

「どんな場所が好きかな?」「ご飯食べるかな?」という問いのもとに、虫かごの環境を整えたり、アリの巣キットを用意した。

環境をデザインする

●準備したもの

虫かご2つ(アリ・ダンゴムシ)・砂糖・水・ティッシュ・虫眼鏡・霧吹き
アリの巣キット(土用・ゼリー状のもの)・昆虫図鑑2冊

事前の試し

- ・アリの巣のでき方や見え方を確認する。
- ・虫たちが住みやすい環境やどのようにエサの与えていけば育っていくのか確認する。

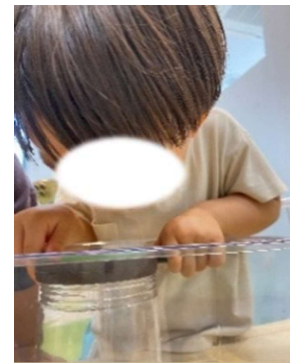
探究活動を実践する

●活動内容

- ・アリやダンゴムシにエサ(砂糖)や水分を与えながら、観察する。

●子どもたちの様子

- 「どんな場所が好きかな?」という問いに対して
- ・葉の下を覗いたり、アリの巣キットを見て、「どこにいるかな?」「隠れてるのかな?」と言葉にしながら探し、姿を確認すると「いた!」と保育者や友だちと共有し、目で追いさまざまな角度から観察していた。
- 「ご飯食べるかな?」という問いに対して
- ・「どうぞ」と言いながら、砂糖や水分(濡れティッシュ)を与えながら、「ご飯食べるかな?」「お水飲む?」と虫かごに顔を近づけ、観察する。虫眼鏡を手に取り、じっくりと観察し始める子もいた。
-
- ・用意した絵本を持ってきて、「一緒だね!」と知らせていた。
 - ・日常的に使用している保育室で行ったので、アリが載っているわらべうたの本を見つけてきて、「ここにもいたよ」と知らせる。



振り返りをふまえた気づき

さまざまな身近な虫と過ごしてきたことで、どのような場所を好み、どのような物を食べているのか興味を持ち、接するようになっていた。虫かごやアリの巣キットを覗き、公園や広場での虫探しの経験から「ダンゴムシさん、葉っぱの下にいるかな?」「土の中?」とことばにし、霧吹きを吹きかけ湿った環境を作ろうと慎重になる姿が見られた。

自分たちも毎日食事をするという経験が、「虫たちもご飯を食べるかな?」という問いにつながっているのではないかと考えられた。アリへ砂糖を与える際、手にくっついてしまい上手く与えられない姿があったため、スプーンを用意してもよかったのではないかと思った。また日常的に過ごしている環境で行ったことで、アリが載っている本のことを思い出し、手に取りながら知らせに来るという行動には驚かされた。

活動③

アリの動きや暮らしを知り、全身で表現する

問 い

「何してるかな？」 「どうやって動いてる？」

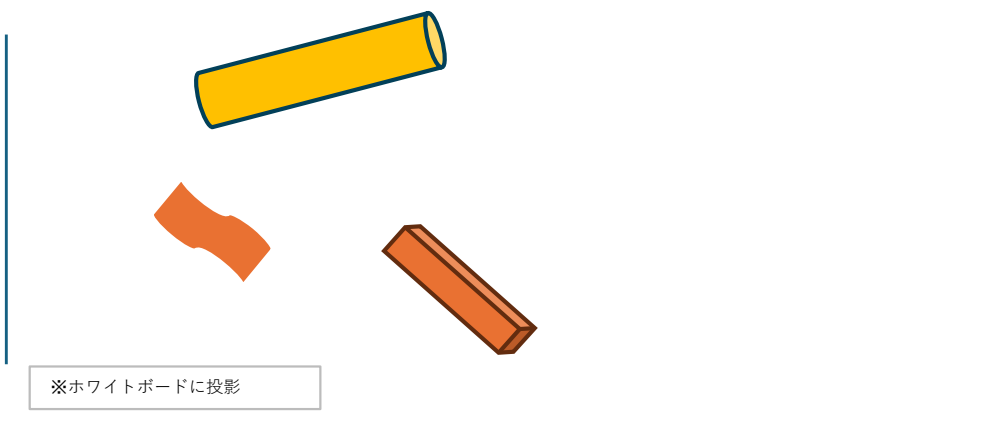
準備物

プロジェクター | 暗幕 | トンネル | 段ボール | クラフト紙

環境構成

- 2～3名ずつ行う。
- アリの生活をホワイトボードに投影する。
- 全身を使いアリの動きを自由に表現できる場所とトンネルや段ボールをアリの巣に見立てたり、クラフト紙を葉に見立てながら自由に表現できる場所を確保する。

サンルーム



身近な虫

活動③ ～アリの動きや暮らしを知り、全身で表現する～

R8.8.24

アリと過ごしていく中で、「何しているかな?」「どうやって動いてる?」という問いのもとに、トンネルや段ボール・クラフト紙を用意し、プロジェクターでアリを投影した空間を作った。

環境をデザインする

●準備したもの

プロジェクター・暗幕・トンネル・段ボール・クラフト紙

事前の試し

- ・室内の暗さを確認をする。
- ・アリの暮らしを投影する。
- ・クラフト紙が滑らないか、置き方を確認する。

探究活動を実践する

●活動内容

- ・プロジェクターでアリを投影した空間で、全身を使ってアリを表現する。

●子どもたちの様子

- ・四つん這いになりながら、友だちとアリが動く姿を表現する。
- ・密集したアリが投影されると「ごっつんこ」と言い、投影されたアリとごっつんこしようとしていた。
- ・素早く動くアリが映ると、一緒にかけ回ったり、その忙しさを手をパタパタ動かしながら表現していた。
- ・アリの巣からアリが出てくる様子を「穴あるよ」と言い、段ボールの中をくぐり、同じということを知らせていた。
- ・段ボールをお家に見立て、巣から出てくる様子をジャンプしながら表現していた。
- ・クラフト紙を土に見立て、寝転び、休んでいる姿を表現する。



振り返りをふまえた気づき

トンネルを用意していたが、アリの巣と結び付けるのは難しく、用途が変わっていたので、取り除いた。取り除いたことで、投影されているアリへ目が向いていた。

日常的に“おつかいありさん”や“アリさんのおはなし”を歌っていたので、密集したアリをみて、「ごっつんこ」という表現へとつながっていた。

ゆっくり歩く姿を四つん這いで表現したり、素早い動きを走ったり、手をパタパタと動かしながら表現することは、アリとじっくり関わってきたから現れた表現だったのではないかと感じた。また、クラフト紙を土に見立てたり、段ボールをアリの巣やお家に見立てる姿もあった。段ボールをくぐったり、ジャンプして巣から出てくる表現は、日常的なアリの観察、関わりがアリは土のところにいる、穴の中から出てくるものと、そのような姿につながったのであろう。

活動④

アリの動きや暮らしを自分なりに表現する（描く）

問 い

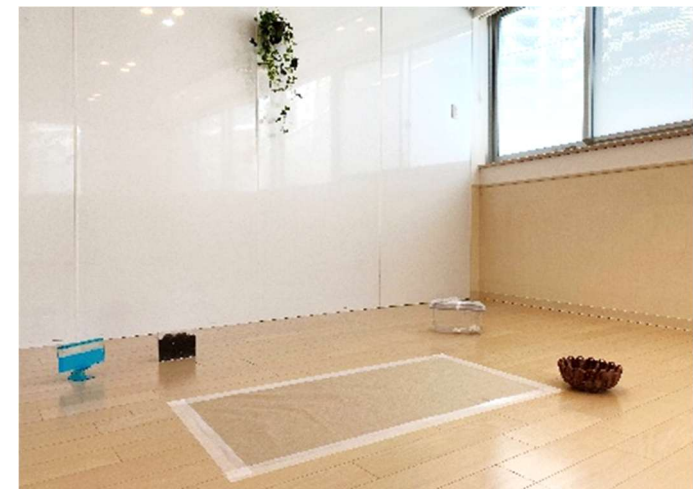
「どうやって動いていたかな？」 「どこを歩いてたかな？」

準備物

クラフト紙 | クレヨン（黒・灰色） | 植物 | 虫かご（アリ）

環境構成

- 2～3名ずつ行う。
- 虫かごを見やすい位置にセットする。
- 室内の明かりは暖色系やや暗めで行う。



身近な虫

活動④ ～アリの動きや暮らしを自分なりに表現する（描く）～ R8.8.28

「どうやって動いていたかな？」「どこを歩いてたかな？」という問いのもとに、描く環境を整えたり、アリの巣キットを用意した。

環境をデザインする

●準備したもの

アリの巣キット(土用・ゼリー状のもの)・虫かご・クラフト紙・クレヨン（黒・灰色）・植物

事前の試し

- ・アリの巣のでき方や見え方を確認する。
- ・描く環境の明るさや、複数の紙を用意し書きやすさと見やすさを確認する。

探究活動を実践する

●活動内容

- ・アリの動きや暮らしを自分なりに表現する(描く)

●子どもたちの様子

- 「どうやって動いていたかな？」「どこを歩いてたかな？」という問いに対して
- ・アリの巣を見ながら、「アリさんどこ？」「歩いてる」と、アリの様子をじっくりと見つめクレヨンに手を伸ばしていた。
 - ・クレヨン而走らせる手の速さを変えながら線を描き、手がピタッと止まると「アリさん」「一緒だね」と描いたものに言葉を添える姿が見られた。
 - ・「どうやって動いてたかな？」という問いに対して、「こうやって」とアリの動きを体で表現している姿があり、「描いてみる？」という問いに対して、クレヨンを手に取り、自分なりのアリを描き「見て、アリさんだよ」「ご飯食べてるの」とアリの姿を保育者に伝えていた。



振り返りをふまえた気づき

これまで、アリを育て関わりながら過ごしてくることで、アリへの興味関心が広がり、アリの巣を見ながらアリがどこにいるのかじっくりと観察し、動いている様子を自分なりに描いていた。クレヨンを動かす速さや、強さを変えながら表現している姿が見られ、アリの様子を真似ながら描く姿もあり、それぞれが自分なりのアリを表現していた。アリを見ながら描くことで、見た物を表現しようとじっくりと取り組み、出来たことに喜び、保育者や友だちに嬉しさを共有する姿が見られていた。見たものが少しずつ自分の表現になっていく心地よさを感じていた子どもたちであった。

「ダンゴムシさんと仲良し」



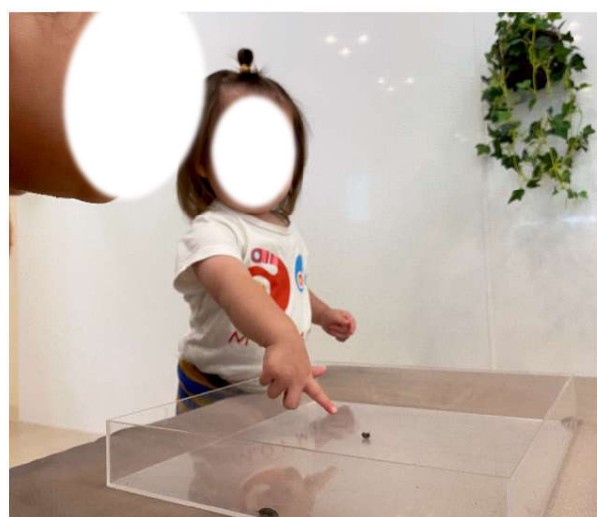
広場で出会ったダンゴムシと一緒に帰り、
しばらく共に過ごしてきた子どもたち。
毎日様子を見たり、触れたりしながら、
「ダンゴムシさん」と親しみをもち、
少しずつ距離を縮めてきました。

お散歩しているダンゴムシを
じっと見つめる。

近づいてきた！

つんつん。

わあっ！



ダンゴムシがひっくり返り、
たくさんの脚をモゾモゾ動かす。
真似をして手足を動かし、
「一緒だね！」

再び歩き出したダンゴムシ。
「どこいくの？」
「まて、まて。」

あれ？
動きを止めた。

「どうして？」
つんつん、つんつん。
「一緒にあそぼうよ！」



子どもたちはダンゴムシを「観察対象」ではなく、
「一緒に遊びたい友だち」として関わっていました。
「一緒だね」「どこいくの？」という言葉には、
ダンゴムシを身近な存在として受け止め、
関係を築こうとする姿が見られました。
今後も子どもの「どうして？」は続いていくでしょう。

身近な虫とともに ～何を食べる？～

長い期間、さまざまな身近な虫とともに過ごしてきた中で、
「ごはん食べるかな?」「お水飲む?」
という問いが生まれた。

そこで砂糖や濡れティッシュを用意し、
アリさんたちに食事を与えてみることにした。

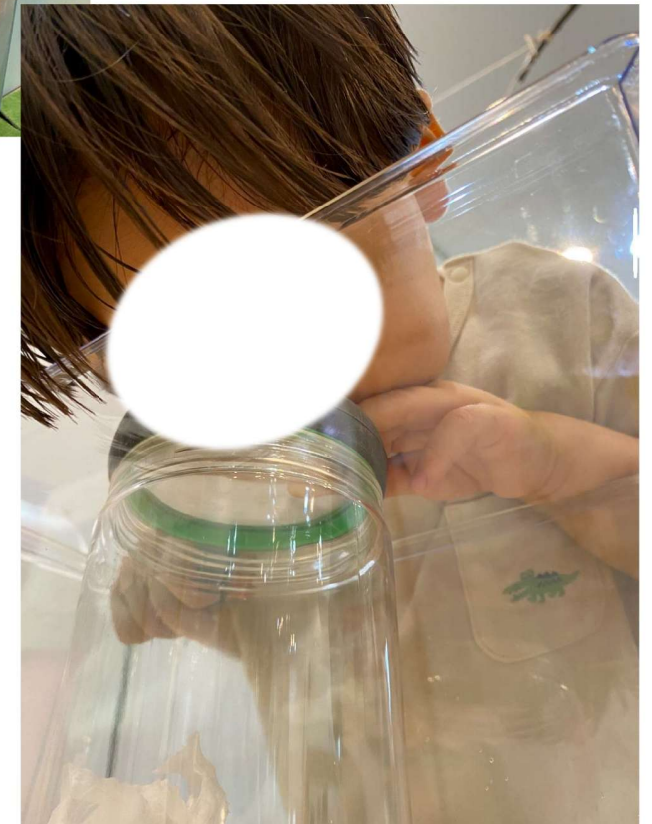
「食べるかな?」「お水飲むかな?」
じっとアリさんを見つめる子どもたち。
アリさんが動くたびに、顔を近づけて追いかける。

より近くで感じようと虫眼鏡を使い、じっと見つめる。

「あ、動いた」「食べてるかな?」
小さな体を一生懸命動かすアリさんに、
子どもたちの心が惹きつけられた。

毎日の“食べる”という経験が、
「アリさんごはんを食べるのかな?」
という問いにつながったのかもしれない。

どんな風に動いて、何を食べているのか...
アリさんをもっと知りたいという興味はますます深まっていく





これまでたくさんアリさんと触れ合い、関わりながら過ごしてきた子どもたち。

アリさんを投影した空間に入ると「アリさんー！」と言いながら
近くには寄りタッチしたり、じっくりと動きを見ていた。

しばらくすると、ハイハイしながらアリさんの動く姿を表現し始め、お部屋の中をお散歩。

「アリさんのおうちだよ！」と、ダンボールをアリさんの家に見立て、
クラフト紙を土に見立てて横になり「ゴローン」
アリさんが動きを止め、休憩している様子表現していた。

今までアリさんの歩く姿をじっくり観たり、ご飯をあげたり、
暮らしている様子を見ることで、自分なりの表現へとつながっていた。



大切に育てているアリの巣キットを覗き込み、
「アリさん、どこ？」
「あるいてるー！！」
アリが歩く様子をじっと見つめたあと、
クレヨンに手を伸ばした。

つつつーっ！
がしゃがしゃがしゃ！

クレヨンを走らせる手の速さを変えながら、
線を描いていく。

ピタッと手が止まり、

「アリさーん」
「いっしょだね！」

と、描いたものにことばを添える。

そして、もう一度アリの巣キットへ目を向けた。

アリを見つけ、動く様子を見て、線にしてみる。
描いた線と目の前のアリを見比べながら
「見たもの」が少しずつ「自分の表現」になっていった。

使用物

昆虫図鑑 | 虫かご（大） | アリの巣キット（土状のもの・ゼリー状のもの） | 虫眼鏡
霧吹き | 砂糖 | ティッシュ | トンネル | 段ボール | プロジェクター | クラフト紙 | 暗幕
クレヨン（黒・灰色） | 机 | トレー | 布（茶色） | 植物

テーマ：身近な虫

全体の振り返り

戸外での虫への興味から始まった活動だったが、園と一緒に帰り共に過ごしていくことで、どのようなところ・どのようなものが好きなのかを保育者や友だちと話したり、図鑑や本をみて興味関心を広げていった。霧吹きや葉っぱを用意して、環境を整えたり、エサをあげる等、身近な虫との日常的な関わりが“虫さんたちも友だち”と愛着が日々増していた。動かない様子をみて、「どうしたのかな？」「お腹空いたかな？」等、心配する姿もみられることが多くなり、共感性が育まれていた。

長期間の虫との関わりがで、動きや特徴を捉え、全身を使ったり、線に描く表現へとつながっていた。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ三軒茶屋園

〒154-0011
東京都世田谷区上馬1-17-10-2階
TEL:03-6450-8402
FAX:03-6450-8403